

## 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

## 【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 法文学部・2年

氏名: 阿久根 千楓

授業科目名	海外異文化体験実習(イスラームの多様性を学ぶ)
1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>トルコ研修では、ギリシャ・ローマ遺跡があるエフェソスのあるイズミール、セマーに代表するイスラム色の強く感じられるコンヤ、首都のアンカラ、ブルーモスクやアヤソフィア、その他多くの文化施設が残りボスポラス海峡も有名なイスタンブールを訪れた。そうした場所を訪れる中で、古代人の精巧な技術や凝り方、宗教的にも政治的にも日本では見られない傾向を目の当たりにした。圧倒された。そして、そういった異文化に限らず、改めて日本のことをよく知りたいと考えさせられた。当たり前すぎて気づかない日本の良さがまだまだあると思ったからだ。この世界には沢山の美しいものがあることを感じた研修だった。</p>	
2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>トルコ研修を通して、私は一貫して壮大な何かを感じた。例えば、朝日や夕陽がいつも綺麗で元気をもらえること、バスや電車から見える景色が雄大で地球を感じられること、ショーでは無く信仰の一種としてセマーという宗教儀式が存在することなどだ。とても個人的な感想ではあるが、約10日間滞在した中で、全て実際に現地を訪れ、見て聞いたからこそ得られた感覚だと考える。アタチュルク廟を訪れた際には、国の父と言われる存在の人間に多大な尊敬の心が注がれていることを感じた。首都アンカラという地理的なことも関係しているかもしれないが、同世代のアンカラ大の学生が口を揃えて彼を好きだとはっきり述べたことが印象的だ。日本だとそんなことは無いが、どちらが正解かとも言い切れなかった。狂崇拜にも思えた一方で、日本もそのようにもう少し政治家に興味を抱いてもいいのでは無いかと感じたからだ。</p>	
3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>首都アンカラで暮らすシリア内戦から逃れて来た方のお話を聞いた。最後に我々日本の若者に向けて仰られた言葉がとても印象的である。それは、世界平和のために大きなことをしようとするのではなく、身近にいる困っている人を助ける姿勢を皆が持つことが世界平和につながるということだった。今もなお続くシリア内戦を初め、ウクライナ戦争や遠く離れた教育を受けられない子ども、飢餓に苦しむ人々のことを考えて、胸が苦しくなることが多々ある。何か出来ないかとそう簡単に成し得ない大きなことばかり考えがちだったが、まずは身近なところから出来ることから始めることが大きな一歩だと考えさせられた。</p>	
4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>地域社会の発展に寄与するための目標は、理不尽な理由で暮らしに支障が出る人を減らすことだ。トルコ研修を通して、宗教や政治による一定の統一感的なものは感じられた。しかし、社会をより円滑かつ生活の質を高く保つためには、さらに様々な要素が存在する。トルコの街を見る中で、特に都市部はホームレスや物乞いの方が多かったことが印象的である。難民である可能性や雇用の問題の可能性など、もちろんそれぞれに背景があるはずだ。社会システムによって日本でも防ぐことが出来ないかと考えさせられた。これは、座学だけでは学びきれないと思うので、積極的にフィールドに出てスキルを蓄えたい。</p>	

## 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

## 【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 農学部・1年

氏名: 関 悠人

授業科目名	海外異文化体験実習(イスラームの多様性を学ぶ)
1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>研修前は、自分の持つイスラム教やムスリムに関する知識が不十分であることにすら気づいていなかった。研修先のトルコではムスリムがどのように生活し、何を思ってイスラム教を信仰しているのかを本人達の口から聞くことが出来た。他、町のあちこちにイスラム教の影響を感じる事が出来た。レストランにもスーパーにも豚肉は一切無く、朝の5時半過ぎから祈りの時間を知らせる放送が大音量で流れ出した。そんなイスラム圏特有の経験が十日の間に数えきれないほどあり、そういった経験は今後ムスリムや中東出身の人と関わる上で、非常に有益になると考えられる。今回の研修では、イスラム文化について正しい知識をつけることが出来、自身の価値観をより多様なものにすることが出来たと考える。</p>	
2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>トルコは物価が安い、ということ事前に聞いていたが実際に買い物をしていると、その国の経済が漠然と分かった気がした。まず、防寒着を買いに行った際、ジャケット類は安いものでも1000リラ弱(1リラ=約8円)したが、セーターなどは200~300リラほどで売られていた。商品タグを見ると「Cotton100%」と記載されており、トルコ内を走る電車の車窓から一面の木綿畑が見えたことを思い出した。また、町中で売られているシMITTというパンはどれも3、4リラで売られておりあまりの安さに何度か買ってしまっただが、研修終了後にトルコの小麦の生産量を調べると世界10位の生産量であり、またしても合点がいった。このように、町で売られているものやその値段からその国の経済を垣間見ることが出来、興味深かった。</p>	
3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>私はコンヤという町で『セマー』というイスラム神秘主義者の舞踊を見た際に、「敬虔なムスリム達は、自分たちの祈りが外国人観光客から見世物のように見られることに対して、抵抗や不快感はないのだろうか」と疑問に思った。そのことについてアンカラ大学の学生に尋ねてみると、「人前で舞踊をするムスリムは、『自分たちの舞を見てイスラム教に興味を持ってもらいたい』という想いでいるため、抵抗や不快感はないはずだ」と答えてくれた。この発想は私には全く出てこなかったため非常に驚かされた。日本人は他人からどう思われるのかを極端に気にする民族、という話を以前に聞いたことがあり、私の持っていた考えはまさしく「日本人的思考」だったのだと気づかされた。こういった気づきは、海外でしか得られないものなので、自身の変化としてはとても大きなものとなったと考える。</p>	
4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>ニュースやテレビで報道されるイスラム教徒は、「女性を差別したり、異教徒を排斥する危険人物」というイメージを伴うことが多い。しかし、日本に居ながらにしてこうしたステレオタイプを払拭することは非常に難しい。なぜなら身近にモスクやムスリムはおらず、報道された内容を否定するだけの知識もなければ興味もないためだ。こういった危険な傾向が続くと、やがて排斥運動や戦争へとつながってしまう恐れがある。そうなることを防ぐために、実際にこの目でイスラム文化を見てきた私達が「本当のイスラム文化」を身近な人に伝えていかなければならない。それを積み重ねて少しずつ理解者を増やしていくことが私の目標であり、ムスリムだけでなくユダヤ教徒やクルド人にも目を向けることが私が今度取り組んでいきたいことである。</p>	

## 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

## 【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 農学部 4年

氏名: 高縄まなか

授業科目名	海外異文化体験実習(イスラームの多様性を学ぶ)
1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250~300字程度)	
トルコの歴史や文化、宗教について学んだ。特に印象に残っていることは、エフェソス遺跡とその博物館だ。エフェソス遺跡は大変広大で、古代都市として栄えていたことが遺跡からもわかった。日本のように、触ってはいけないところが区切られておらず、大理石や土、砂、柱、図書館の跡地など様々な部分を肌で感じる事ができた。これだけ広大な遺跡を古代につくったことだけでなく、現在まできれいに維持していることに圧倒された。また、博物館の目玉であるアルテミスの銅像は、体中にたくさんの乳房があり子沢山などの良い意味が込められていることを知った。専門以外のことを学び、新しい発見があったが自身の知識不足も痛感した。今後はギリシャ神話についての知識を増やすため、本を読みたいと考えている。	
2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250~300字程度)	
コンヤというイスラム色が強い都市でベールをかぶったことで発見できたことがある。モスクを見学した後、お店でベールを購入し着用した。身に付けてみると、防寒対策や日焼け対策など髪や綺麗な部分を隠すためだけでなく、機能性も高いことがわかった。また、道端でベールをかぶった女性から声をかけられることや、笑顔をむけられることが多々あった。ベールをかぶっていたため、私をイスラム教徒と勘違いしたのかもしれないが、イスラムの文化を受容しようとしている私たちの姿勢が嬉しかったのかもしれない。「イスラム教徒はベールをかぶる」ことを言葉として学ぶのではなく、実際に着用し体験することが、異文化理解につながるのだと学んだ。	
3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250~300字程度)	
大学生のあるべき姿や印象が変わった。日本の大学生は、アルバイトをしている人が多く、長期休暇も長いため、旅行や趣味に打ち込む人がほとんどである。しかし、アンカラ大学の学生は大半の人がアルバイトをしていなかった。その理由は、奨学金がもらえなくなるからである。学生の本業は、勉強であり仕事は社会人になってからだという考え方から、多くの学生がアルバイトをせず、長期休暇期間もボランティアや専門以外の勉強に励んでいる。日本でも、大学生の本業は学業と言われているが、実際に実施できているトルコと比較すると、日本の大学生のあるべき姿を考え、海外の大学生などを見習わなければいけないことが一目瞭然だ。時間がある大学生だからこそ、様々な知識を吸収する機会に自ら飛び込むべきだ。	
4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250~300字程度)	
留学生の方との交流や、語学力の向上に努めたい。この理由は二つある。一つ目は、アンカラ大学の学生との交流を通して、異なる文化を持つ学生とさらに交流したいと思ったからである。交流できた期間は二日間だけであったが、その中でもたくさんの発見があった。そのため、自分の視野を広げるためにも留学生との交流や仲良くなったトルコの学生との交流を絶やさないようにしたい。二つ目は、自分自身の語学力の低さを痛感したからだ。研修の中で、シリアの方から難民などについてのお話を英語で聞いたのだが、知らない単語が多々あり理解するのに苦労した。また、アンカラ大学の学生の勉強に対する意識の高さを私も真似たいと思った。そのため、留学生の方と交流することで、語学力の向上に努めていきたい。	

## 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

## 【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 法文学部人文学科2年

氏名: 小畑香南子

授業科目名	海外異文化体験実習(イスラームの多様性を学ぶ)
<p>1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250~300字程度)</p>	
<p>イスラム文化について日本にいるよりも非常に深い学びができたと思います。神を信仰するという感覚はどんなものか、そしてその歴史はどのようなものだろうか、をトルコで学ぶことが出来ました。神を信仰することは自分の行動規範の基にする、日本でいうならば道徳です。そしてその歴史は多岐にわたり、イスラムと一言と言っても様々な派があります。とくに印象に残ったものがコンヤで見たセマーです。セマーは神秘主義の儀式でぐるぐる回ることによってトランス状態に入り神との合一化を目指すというものです。ホールで見せるものとしてのセマーを見ましたが、誰かの家に集まってセマーを行う人もいたそうなので、それも見てみたいと思いました。スカーフをしていない女性は少ないというような街であったため宗教は特別なものではなく身近にあるものだと学びました。</p>	
<p>2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250~300字程度)</p>	
<p>日本と違うところがいくつもありました。日本では道路がアスファルトで一面平たくされていますが、トルコは石畳が多くガタガタしていました。そのため目が見えない人のための点字ブロックなども設置されていませんでした。信号もあつてないようなもので、横断歩道も渡れるときに渡るものでした。きっちりしなくてもよいという雰囲気が好きな人はトルコの交通を好ましく思うと思います。また、道端で紙コップを差し出す人、ものを強引に売りつけてくる少年など貧困が目に見えてとても心が苦しくなりました。この光景を思い出すたびに日本の貧困は目に見えていないものだと感じます。</p>	
<p>3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250~300字程度)</p>	
<p>研修前は常に人に頼ってばかりでした。しかしコンヤのあるアイスクリーム屋さんでアイスを買う時に、いつもなら英語を使うか近くにいる友人に頼むのですが勇気を振り絞ってトルコ語で注文しました。たどたどしいトルコ語で店員さんも察したのか、簡単な英語を使ってくれました。しかし、値段が15リラか50リラか聞き取れませんでした。そこで「on beş? (15)」と尋ね、「evet! (はい!)」とトルコ語だけで、また自分の力でアイスを買うことが出来ました。たったそれだけの出来事でしたが、「ちゃんと私でもできるんだ!」と自分に自信がつけました。</p>	
<p>4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250~300字程度)</p>	
<p>地域社会の発展、社会というのは人の集まりでできていることだと理解しています。私という小さな存在が地域のためにできることは、近くにいる人が困っていたら助けることです。シリア難民の方からあるお話をさせていただきました。「私たちのような難民のために何ができるとよく聞かれますが、隣の人に親切だけでいいのです。それが広がっていけば世界はより良くなる」とおっしゃっていました。私はその言葉に感銘を受けました。大きなことを成し遂げるためには大きなことをしなければならぬと思っていたので、足元の小さな出来事に目を向けていなかったのです。したがって、私はより良い世界のために、より良い地域のために近くにいる人に親切にして、その輪を広げていきたいです。</p>	

## 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

## 【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 法文学部人文学科3年

氏名: 松井嘉孝

授業科目名	海外異文化体験実習(イスラームの多様性を学ぶ)
1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>学習内容としては主に、トルコ共和国建国(アタチュルク)、オスマン帝国の歴史、ギリシャ・ローマ時代の歴史、ヒッタイト文明の歴史、イスラーム、異文化理解について学びました。まず歴史関連については実際に遺物や博物館で展示を見学する中で、当時の人々の暮らしや生活を教科書で学ぶよりもより鮮明に知ることができました。トップカップ宮殿を見学した際には、オスマン帝国が実際にどれほどの繁栄を築いていたのかを実感しました。またイスラームについてはトルコ国民の生活に根付いており、宗教色が強い街に行った際には日本とは異なり宗教が生活の中心にある世界を見ることができ、コミュニティによって宗教観が大きく異なることを学びました。</p>	
2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>現地での生活を通じて私は生活や政治における宗教の在り方の違いを最も学びました。国民の98%がイスラム教徒であるトルコではモスクが多く、コンヤでは女性のほとんどがスカーフをかぶっていました。トルコ国内には豚肉はほとんど流通しておらず、また街にはコーランやお祈りの時間を知らせる音楽が響いていました。また博物館で女性にスカーフを強制させる場面に出会ったときに個人の信教の自由を守ることの大切さを痛感しました。自分は今まで日本社会の独特の宗教の在り方(いろいろな宗教が混ざり合っている状況)について世界から見ると変な状況なのかなと思っていましたが、宗教を強制される風潮のある国の人からすると日本の状況はうらやましいと言われ、そのような見方もあるのだと感じました。</p>	
3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>異なる文化や母語を持つ人と関わることへの抵抗が低くなったことです。今まで日本で生活する中でも日本語を母語としない人と関わる機会はありませんでしたが、自分のコミュニケーション能力に自信がなかったことなどから抵抗がありました。またそのような人と関わりたいけれどもうまくできなかったらどうしようといったようなことから関われないこともありました。しかし今回の研修で日本とは文化の違う人と多く関わることで自分の中で抵抗なく関われるようになったと思います。研修では一人でも多くの現地の人と関わりたいと思い、様々な人とコミュニケーションをしたことで、自分の中で自信もつき、また日本でも文化的背景の異なる人と積極的に関わりたいと思えるようになりました。</p>	
4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>日本国内に生活する日本語を母語としない人や異文化の人に対してのサポートのようなことを取り組みたいと思います。地域全体でそのような人への配慮やみんなが暮らしやすいような社会を作っていくような仕事をしたいなと思います。そのためにまずは自分の身の回りにいる人ともっと関わって日本をもっと楽しんでもらいたいです。大学にいる留学生と深くかかわって彼らの困りごとに少しでも助けとなれるような人になりたいと思います。また今回トルコでかかわった人とも継続的に関わり日本のことや住んでいる地域について伝えていきたいです。日本を発信することで地域社会発展に少しでも貢献できると思うからです。</p>	

## 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

## 【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 工学部(化学生命工学)・2年

氏名: 西園みなみ

授業科目名	海外異文化体験実習(イスラームの多様性を学ぶ)
1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>研修ではトルコの歴史的背景と現在の社会について、イスラーム教とトルコについて、クルド人について、シリア難民について学んだ。中東の持つイスラーム教に大きな影響を受けた文化・社会と、宗教とある意味隔絶されたヨーロッパ社会の両方の影響を受けたトルコがどのような国なのかとても興味があった。</p> <p>1番の学習成果はどんな宗教や境遇を持つ人も偏見なく見て尊重することの重要性とその難しさを知ったことである。トルコに着く前に経由したアブダビでもニカーブを身につけている女性を多く見かけついまじまじと見てしまった。イスラーム色が他のイスラーム諸国に比べ薄いと言われるトルコでさえ、今回訪れなければまったく違う人生になったのではと感じるほどに受けた衝撃は大きかった。全く偏見を持たないということは難しいが、せめて柔軟な考え方は持ち続けたいと思った。</p>	
2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>今回の研修で一番印象に残っていることは、コンヤのメヴラーナ博物館に入った時の出来事だ。私は入口に置いてあったレンタルのヴェールをまとった。観光客の多くはヴェールを身につけていなかったように思う。博物館内には観光客だけでなく多くの地元の人の姿もあった。</p> <p>博物館内で私は突然“Teşekkürler(ありがとう)”とムスリムの老夫婦に言われた。その後何かトルコ語で言われたのだが理解することが出来なかった。先生に確認し「私たちの文化を尊重してくれてありがとう」という意味だと知った。何故だか突然涙が溢れた。</p> <p>涙の理由が無意識にイスラーム教に不信感や偏見を持っていた申し訳なさなのか、心が少し通じ合った嬉しさなのか分からないが「文化・宗教・人を尊重する」大切さを学んだ出来事だった。</p>	
3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>“世界の中のイスラーム”受講以前の私のイスラームに対するイメージ・考え方は“テロ・男尊女卑・自分と大きく異なる考えを持つ人々”というものだった。今回の研修で私が1つテーマにしたことは自分の中東やイスラームに対する考えを捨て、まっさらな気持ちで自分で直接見て感じたことを信じようということだ。</p> <p>分かったのはアンカラ大学の同世代の学生も、ヴェールをまとった女性たちも、シリア難民の方も何も変わらない同じ人間だということだ。本当に当たり前なことなのだが、中東・イスラームというのは今までの私から見ると本当に異世界だったのだ。</p> <p>ヴェールについても昔はかぶっていたが考え方が変わり外したという女性も、私たちがかぶっていると嬉しそうにしていた女性もいた。イスラームに対しても一人一人に考えがあって一つにくっついて考えることは不可能だと思った。</p>	
4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>遠い異国のことを学び直接見たりその国の人々と関わることでより自分の住む日本・鹿児島のことを客観的に見ることができる。私はその時見えた悪いところ、見直さなければならぬことを市域社会の発展に生かすことがとても大切だと思う。</p> <p>良い面を伸ばすことも大切だが、悪いところの穴を埋めなければ不安定で結局大きな成功を成し遂げることはできない。私はいつか海外で仕事をしたいという夢がある。その時に地元鹿児島を振り返らないのではなく、たくさんの経験と深い知恵を得た後それを鹿児島の発展のために使いたいと考えている。</p> <p>より良い鹿児島を守り成長させるために多くを学び、沢山のものを直接見て刺激を受ける大学生活を送りたいと思う。</p>	

# 学 生 海 外 研 修 報 告 書

鹿児島大学長 殿

## 【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 農学部国際食料資源学特別コース

氏名: 西田優樹

授業科目名	海外異文化体験実習(イスラームの多様性を学ぶ)
<p>1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250~300字程度)</p> <p>研修先での自身の成果は、海外の事前学習で何をすれば良いのか分かり、実践できたということです。以前、タイ研修に行った際、その地域での歴史について学びが不十分で、質問が思い浮かばない状態でした。今回は、その経験を活かしてい事前にトルコの歴史について調べたり、トルコと一緒に交流した学生に質問をして理解を深めることが出来ました。まだ不十分でしたが、前回の研修の反省を生かすことが出来たと思います。研修での学習内容では、トルコには昔からたくさんの方が住んでいて、人の行き来があり、様々な見た目の方が共に生活している姿を見ることが出来ました。日本がクリスマスやハロウィンなど海外からの文化を受け入れて独自に発展させているように、人自体も受け入れて一緒に生活していけばたくさんの方の刺激を受けることが出来るのではないかと考えました。</p>	
<p>2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250~300字程度)</p> <p>現地での生活を通して、海外で活動していきたい場合には英語だけでは不十分であるということを学びました。私は将来、海外で食品や化粧品の商品開発や研究をしていきたいと考えています。トルコで生活する上で、トルコ語が話せることが必ず必要だと感じました。私は海外で働きたいと考えているのに英語の学習だけにしか力を入れていませんでした。興味がある国の言語、また、複数の地域で使われている言語にも力を入れて学ぼうと思いました。また、大学生のうちにジェスチャーや絵、表情という言葉を使わずに感情が伝えられる能力を向上させたいです。</p>	
<p>3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250~300字程度)</p> <p>私の最も成長した点は、日本語が母語では無く、日本語を学んでいる人と日本語で話す際の日本語が成長したと思います。自分の言いたいことを文法に気をつけて、綺麗な言葉選び、わかりやすい優しい日本語を使うという経験が出来ました。今回は話す中で、日本についての知識や、日本とトルコで過ごした中で気がついたことを盛り込みました。日本に興味があり、日本語を学んでいる相手に対して、どのような話をすればためになるか、今まで知らなかった日本のことに触れられるのか考えました。自分の言いたいことが分かりやすく伝わる言葉を探す良い経験になりました。</p>	
<p>4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250~300字程度)</p> <p>地域社会の発展に寄与するため、私が今後取り組んでいきたいことはどのような問題が起こっているのかに目を向けることです。自分にどんな問題が起きているのかという知識がなければ、なにかできる機会に直面しても、そのチャンスに気がつかないからです。知らないこと、想像もしていないことに気がつくことは出来ません。さらに、自分が何か助けられる、行動出来るかも重要だと考えます。日本で困っていそうだと感じた人を見かけても自分が助けるなんてできないだろうと諦めてしまいます。そこで諦めてしまうのを避けるため、自分に自信をもたせられるだけ自分の出来ることを増やし準備をしておきたいです。また、私の目標は、投票に必ず行くことです。自分の持っている権利を大切に、自分の考えの元使いたいと思えるようになりました。</p>	

## 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

## 【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 農学部・一年

氏名: 大野彩絵

授業科目名	海外異文化体験実習(イスラームの多様性を学ぶ)
<p>1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250~300字程度)</p>	
<p>私がトルコで得た学びは、他の文化を正しく知り、尊重することの重要性だ。トルコには、日本では考えられない規模の古い遺跡・資料が残っていた。私は、遺跡の時代の技術の高さだけでなく、トルコ人以前にアナトリアに暮らしていた人々の遺跡がそのまま残っていることに感嘆した。トルコ人は、かつてその地にいた人々の遺跡や知恵を、同じ人種ではないけれど、守り、利用してきたのだと学んだ。トルコは、人口の大半がムスリムであり、生活の場においても日本と異なる点が多かった。互いの文化に敬意を払い、時に利用することで生まれる、豊かな社会の可能性について考えさせられた。</p>	
<p>2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250~300字程度)</p>	
<p>私がトルコで得た学びは、他の文化を正しく知り、尊敬することの重要性だ。トルコには、日本では考えられない規模の古い遺跡・資料が残っていた。私は、遺跡の時代の技術の高さを肌で実感するとともに、トルコ人以前にアナトリアに暮らしていた人々の遺跡がそのまま残っていることに感嘆した。トルコ人は、かつてその地にいた人々の遺跡や知恵を、同じ人種ではないけれど、守り、利用してきたのだと学んだ。トルコは、人口の大半がムスリムであり、生活の場においても日本と異なる点が多かった。互いの文化に敬意を払い、時に利用することで生まれる、豊かな社会の可能性について考えさせられた。</p>	
<p>3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250~300字程度)</p>	
<p>コンヤという町でヒジャブを被って行動した経験は非常に貴重なものになった。ヒジャブを被る前までは、現地の男性からは声をかけられても、女性や子どもから話しかけられることはなかった。私は、観光客としてムスリムを体験する意味でヒジャブを被り、好意を向けられて嬉しいと感じていた。しかし先生は、私はアジアのムスリム、すなわち仲間として認識されているのだと考えていた。私にはその考えはなかった。また、日本の学生のなかには、ムスリムではない外国人がヒジャブを被ることに抵抗があるという人もいた。また、アンカラ大学のある学生は、日本人の私のヒジャブを被りたいという気持ち自体に驚いたような反応だった。多くの立場からの異なる反応を一度に意識したのは初めてのことであった。宗教的な話題に複数の意見が生じることを身をもって体験した。</p>	
<p>4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250~300字程度)</p>	
<p>シリア難民のザインさんは、私たちにできることは「隣の人を助けることだ」と仰った。自分の近くで困っている人を助ける行動では、世界の難民を即座に救うことはできないが、地域から世界を変え得るのだと教えられた。この精神をこれからも根本に持っておきたい。また、私は大学生として、自分の専門分野をしっかりと学習し、将来仕事として地域社会に貢献することが重要だと考える。今後、実地的な学びを得るため、活動に参加することを計画している。さらに、この研修は自国の文化・異文化を学ぶ姿勢を持ち続けることを意識するきっかけとなった。さしあたりの目標に、第三外国語としてフランス語の勉強を開始し、検定を受験することを設定する。</p>	

## 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

## 【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 水産学部 3年

氏名: 谷村雄成

授業科目名	海外異文化体験実習(イスラームの多様性を学ぶ)
1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>研修先のトルコではいくつかの都市を訪れ、それぞれの地域で異なるイスラーム文化の多様性を学んだ。その中で同じトルコ内でも宗教との関わりが高い地域、薄い地域があることが理解でき、また人々の宗教に対する考え方も大きく異なることが理解できた。またそれぞれの都市の史跡や博物館を訪ねることでその地域の歴史に迫ることが出来た。中でも私が衝撃を受けたのはアタチュルク廟である。トルコに行くまでは名前も知らない人物であったが、1人の人物のためにここまで大きい建物を建てる事が出来るのは驚きであり、また彼に対する人々の感情がほぼ一様に好感的であったことが日本人の私から見ると異常であり、また高い興味を唆られた。</p>	
2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>この研修の前は日本とトルコの宗教観は割と近いのではないかと感じた。というのも、どちらも仏教とイスラームが主要な宗教であるものの、どちらも厳格に守っているわけではないと感じていたからだ。しかしながら実際はトルコは思っていたよりもイスラームの考えが強いのかなと感じた。コンヤのようなイスラーム色が強い地域はもちろんそうだが、宗教色の弱いと思っていたアンカラの学生の中には、親が宗教に厳しいが自分はそれが嫌だという人もいた。日本の学生は宗教に対して無意識であることが多いが、トルコの学生は意識的に宗教から離れようとしている点が現地に来て初めて得た知見であった。また日常生活を切り取って見ると、日本と比較して多くの点が雑で整備されているとは言い難かったが、そのぶん人々の生き方は日本より自由で、私にはそれが心地よく感じた。</p>	
3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>10日間という海外研修としては長くはない期間であったものの、それが私に与えた刺激は非常に多大であった。中でもアンカラ大学の生徒と交流する中で自分の心境が大きく変化した。日本とトルコでは学生の置かれている状況が異なり、大なり小なり多くの学生が経済的に困窮しているようであった。また、基本的には親の仕送りや奨学金で賄っており、あまりバイトはできないようであった。皆が日本語が達者で私よりもたくさん勉強しているはずなのにそのような状況下に置かれていることが嫌だったし、それを改善していきたいという思いが生まれた。またトルコを含む中東のイスラームの在り方やクルド人問題も研修を通して非常に興味を惹かれた。</p>	
4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>今回学んだことがどのようにして地域社会に活かせるかどうかはわからないが、まずはグローバルイニシアティブ概論を通して今回の研修で学習したことを整理し、さらに他者と意見交換することでより考えを深めていけたら良いなど考える。また今回新たに得られた知見や感情を基に誰かに貢献することができれば良いと思う。さらに、研修を通して興味を惹かれたイスラーム文化やクルド人問題といった内容をもっと知りたいという意欲があるため、それらについてどんどん学んでみたい。今回の研修を通してやりたいことや将来の道がたくさん開けたため、そのモチベーションを下げることなく挑戦していきたい。</p>	

## 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

## 【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 法文学部 3年

氏名: 内村 菜月

授業科目名	海外異文化体験実習(イスラームの多様性を学ぶ)
1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>今回の海外研修では、遺跡や博物館などの歴史的施設を訪れたり、様々なモスクを訪れ、「セマー」という宗教儀式を見学したり、アンカラ大学の学生やシリア難民の方など、現地の人々と交流をしたりしました。研修に行く前は、トルコやイスラム文化についてあまり知識を持っておらず、自分にとって全てが新しい学びでした。特に、モスクやセマーなどの宗教的要素の体験を通じて、「人々はどのようなことを求めて宗教を信仰しているのか」、「日本におけるイスラム教の在り方」はどうかというようなことを考えるきっかけになりました。トルコにいる間に感じた多くの疑問はまだ解消しきれませんが、これまで意識を向けることがなかった「着眼点」を多く手に入れられたことが、研修の大きな収穫であると考えます。</p>	
2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>事前に鹿児島大学に留学していたトルコ人の方から「東西で宗教の信仰度合いが異なる」と聞いていたが、実際に訪れてみて、本当に場所によって大きく異なることに驚きました。特にイスラム教の色が強かったのは「コンヤ」という町で、前日に訪れていたアンカラよりも、女性のベールを被っている比率が非常に高いと感じました。「東に行くほど厳格にイスラム教の戒律を守っている」と聞いていたが、同じような緯度にある二つの都市で何故ここまで異なるのだろうと疑問に感じました。しかし、後からアンカラはトルコの英雄ケマル・アタチュルクを非常に慕っている街で、彼は政教分離を促進した人物であると知りました。そのような政治的背景も現在の街の在り方に影響を与えていると知り、非常に興味深く感じました。</p>	
3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>明確な変化はまだあまり実感できていませんが、海外で起こっている事柄を取り扱ったニュースに意識を向けることが多くなったように思います。そのきっかけとしては、シリア難民のザインさんのお話を聞く機会を頂いたからです。難民の方々は何も悪いことをしていないのに、様々な場面で公的な援助を受けることができず、難民同士のコミュニティー内で助け合っていると知りました。難民に手を差し伸べていないのは日本も同じです。「難民を受け入れる」ということに今の自分の立場で関与することはできないけれども、せめて日本国外で起こっている様々な出来事に目を向けようという意識を持つきっかけになったと思います。</p>	
4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>トルコでは日本・中国・韓国などの東洋人が非常に少なく、自分が「マイノリティ」である環境に極めて緊張しました。また、見慣れない人種に対する好奇心を含んだような視線を頻繁に感じ、居心地が悪く思うこともありました。裏を返せば、日本で生活している外国人も同様の思いをしているのではないかと思います。ムスリムの方々の場合は、ベールは日本において目立つ存在であるし、礼拝の為のモスクも沢山あるわけではありません。自分が感じたことを踏まえて、日本に居住している外国人の方々が少しでも安心して暮らせるような活動に貢献したいと思います。</p>	

## 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

## 【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 法文学部2年

氏名: 八尋有咲

授業科目名	海外異文化体験実習(イスラームの多様性を学ぶ)
1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>街中で子供の医療費の募金をいくつか見かけました。このことから、トルコは医療福祉制度が充実していないのではないかと感じました。ホームレスが多いことも関係していると思います。アヤソフィアやトプカプ宮殿を始めとした遺跡には世界中の観光客が行列を作って並んでいて、これらの綺麗さは世界共通であり、イスラームとキリストが融合した文化はそれらの宗教を信仰していない人の心をも動かしていました。アタチュルク廟ではトルコの政治的歴史を学習しました。イスラームの国でも珍しく政教分離が進んだ国であるトルコの背景にはアタチュルクがいて、アンカラの人々から崇拝されていることを知りました。</p>	
2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>アタチュルクが政教分離を進めた人であることをアンカラで学んだが、空港では公務員とみられる人がベールをかぶった状態で仕事をしていました。トルコの憲法について全然知らないが、日本では政教分離に反しているのではないかと感じました。ベールをファッションとして被って観光していたが、特にイスラーム色の強いコンヤでは、同じムスリムとされているのかよく現地の女性に話しかけられました。ベールはこの国では「ムスリムである」という意味を持つものであることを実感しました。さらに、宗教的意味だけではなく、防寒や避暑にも役立ち、昼は日差しが強くて夜は気温が低い乾燥した地域に適した格好であることがわかりました。</p>	
3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>コミュニケーション能力が上がったと思います。一緒に研修に行った人とは片手で数えられる程しか会ったことがなかったにも関わらず、約10日間過ごせたことです。更に、アンカラ大学の学生さんとの交流に関して、初日では私は日本人としか会話せず、自分がアニメや漫画に興味がないことを言い訳として話しかけることをしませんでした。2日目のアンカラ城に行った時には初日に比べてアンカラ大学の学生さんと話すことができました。夜ご飯を食べたときには鹿児島大学の学生が集中して座っているテーブルではなく、アンカラ大学の学生さんや先生方が多いテーブルに自ら座ることができたこと、より積極的に会話できたことから、コミュニケーションをとるということについて自分自身成長したなと感じました。</p>	
4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>まず選挙に行くことだと思います。トルコに行って難民の方のお話を聞いたり、街中でホームレスの親子などを見たことで自分には生きる権利が与えられているということを実感し、特に選挙権は日本では外国人に認められていません。日本人でありながら選挙権を行使しないことに勿体無さを感じたと同時に、トルコに行ったことで難民支援や外国人に対する扱いについてももっと変わってもいいんじゃないかと思ったことも、選挙に行って投票することで政治に参加できると感じたからです。</p>	

## 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

## 【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 獣医学科・5年

氏名: 木村日花莉

授業科目名	海外異文化体験実習(イスラームの多様性を学ぶ)
1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>トルコ建国の父と呼ばれるアタチュルクという人物について学んだ。彼はトルコ共和国の初代大統領である。近代化、民主主義化、イスラム教国初の政教分離、アルファベット表記の採用などの国際基準化などの多岐にわたる業績を矢継ぎ早に実現したにも関わらず、独裁支配に陥らなかったという点が偉大さであると感じた。アタチュルク廟はたった1人の人物のために建てられたお墓とは思えないほど壮大なものであった。町中の至る所に彼の肖像があるだけでなく、トルコの人々が宗教関係なしに実際に彼のことを敬愛していると答えることに非常に驚いた。日本では彼に当たるような人物はいないからである。島国である日本とは異なり、諸外国に囲まれる中、たった1人でこのような業績を残した彼に興味を持たずにはいられないと同時に、たった1人の人物が国を丸ごと変えることができるという希望も感じた。</p>	
2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>「親切心」について考えさせられた。人々から優しさを感じる機会が多くあった。紅茶をサービスで貰ったり、態々一緒に市電を降りて近いルートを案内してもらったり、手に持っていた鞆を持って貰ったりである。これらの「親切心」を正義とするならば、日本人はそっけないと言えるのかもしれない。しかし、このような行為は果たして本当に相手にとって親切になっているのだろうか。紅茶が飲めない人、歩くことも楽しみたい人、潔癖症の人。価値観というのは人それぞれである。相手の自分に対する優しさを親切と感じるか不親切と感じるかは人次第である。日本人がそっけなさというの、相手の気持ちを配慮した上で間接的な優しさとも捉えられるのではないだろうか。日本人の、次の人が快適に過ごせるように机を綺麗にしてから離席する行為も立派な親切心であると改めて思った。相手の気持ちを考えた上で積極的に優しくあれる人間でありたいと思う。</p>	
3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>経済面や教育面で恵まれていることだけではなく、私や日本人にとって日常の当たり前であることが当たり前でない人達がいることを気付き考え受け止められるようになった。自身の信仰に関わらず豚肉が食べられないこと、宗教的な理由から服装を決められていること。そしてアンカラ大学の学生と話をし、侵略と侵攻の歴史から、自身の血が何人であるのか、一体どういうルーツで存在しているのかが分からない人があるということを知った。好きな服を着られて好きな物を食べられること、自分と周りの人達がなんの疑いもなく同じ髪色同じ瞳の色の日本人であるという当たり前を、みんながそうであると思うことなく、違いを否定するのではなく受け止められるようになった。</p>	
4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>地域社会においては、区分のない人との繋がりや関わりが大切であると考えている。私は地域社会のために町内会活動などのコミュニティに貢献したい。私自身、祖父が町内会の会長をしていたこともあり、幼少期に町内会に所属していた。幼稚園や小学校ではできないような大会や遠方地への旅行をし、色んな年代の子供たちや大人の方、お年寄りの方と様々な場所でたくさんの楽しいイベントや活動を通して関わっていた。具体的には思い出せずとも、暖かく楽しかったという記憶しかない。そういった素敵な繋がりを作り、自分が与えてもらったものを次の世代にも受け継いでいきたい。また、勉強ができる恵まれた環境にいるからこそ、その学びや知識を教育として与えられるよう、これからも勉学に勤しみたいと強く思った。</p>	

## 学生海外研修報告書

鹿兒島大学長 殿

## 【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 法文学部3年

氏名: 和田愛樹

授業科目名	海外異文化体験実習(イスラームの多様性を学ぶ)
1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>10日間のトルコ研修では、イスラーム教の宗教文化を知り、オスマン帝国時代の遺跡や歴史を学んだ。ムスリムたちが礼拝をするモスクでは女性たちと同じようにスカーフを撒く体験をしたり、セマーというムスリムの神と交信する宗教儀式を拝見したりした。宗教の信仰意識が高いとは言えない日本と比較しても、街中に拝礼をするモスクが点在し、一日に数回トルコ中にコーランが流れてくる等の宗教色を感じ取れるのは貴重な体験だった。「異文化理解」とはどのようなことをしてそう言えるのか分からなかったが、私たちが実際にムスリムと同じようにスカーフを撒いたことも、異文化を受け入れることと同じなのだと思えた経験だった。</p>	
2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>イスラーム教はラマダーンや女性のスカーフなど他宗教に比べても明確に分かりやすい宗教行為が多い。その為ムスリムの割合が多いトルコでは、お酒や豚肉といった禁止事項や自分の知らない制限も多い厳格で宗教色の強い国だと考えていた。しかし、イスラーム教は犬を悪として認識しているが、トルコの街中には放し飼いの犬が多くいたり、お酒も普通に飲んだりしていた。現地の学生に聞くと、犬が好きな人も多いし、お酒も好きで私たちと変わらず嗜好品としてあるみたいだった。イスラーム教といっても、昔からの慣習や決まりごとに縛られている訳ではなく、規範は時代の進化に合わせて議論され、変化し続けているということを知ることが出来た。</p>	
3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>10日間のトルコ研修で最も成長したのは自分自身の行動力だ。トルコ研修に参加することも行動力があると評価出来る部分ではあるが、それ以上に研修中行動したことで得られることの方が多くことを実感する場面が多く、日を追うごとに自ら積極的に知りたいと動けるようになった。例えば、研修中に会った現地の学生との交流が今も続いていることもその一つだ。自ら仲良くしたいと働きかけないと関係性は築けないし、続ける義務はないが、今回の研修を通して異文化をもっと知りたいと思えるようになった。視野を広げ、研修後も学びを深められるように自分から連絡を取り、会話を続けようと努力できるようになったのは一番の成長だと感じる。</p>	
4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>直接的に地域社会の発展に寄与することができるかどうかは分からないが、今回の研修で一番感じた言語による壁をなくし、自国以外のことを知ることが今後の目標である。堪能になるとまではいかなくとも、交流する相手の言語を知るだけでコミュニケーションは取りやすくなるし、親しみやすくなる。調べられる情報を、少しでも知っておくことで相手に対する敬意を図れるし、自国以外で起こっている問題やニュースを知ることは自分自身の新しいアイデアに繋がる。無知と少しでも知っていることは天と地との差があると研修に行くと思い知った。だからこそ知ろうとする姿勢は失いたくないし、言語の勉強もより一層取り組んでいきたい。</p>	